

Title	市民参加型演劇の萌芽 : 劇団ぶどう座『どぶろく農 民の墓』(一九七一)をめぐって
Author(s)	須川,渡
Citation	演劇学論叢. 2023, 22, p. 130-142
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/96491
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

市民参加型演劇の萌芽

―劇団ぶどう座『どぶろく農民の墓』(一九七一)をめぐって

須川 渡

はじめに

本稿は、筆者が二〇二一年に刊行した『戦後日本のコミュニティ・シアター―特別でない「私たち」の演劇ミュニティ・シアターにおいて本作かった劇団ぶどう座による『どぶろく農民の墓』(一九七二)かった劇団ぶどう座による『どぶろく農民の墓』(一九七二)がの上げ、日本のコミュニティ・シアター―特別でない「私たち」の演劇』にしたい。

る者も、一定の地域に住んでいて、そのこととのかかわりる。主宰の川村光夫(一九二二−二○二○)は、「演る者も観町)で創設され、現在まで七○年あまりの活動を続けてい劇団ぶどう座は一九五○年に岩手県湯田町(現・西和賀

後も現在まで続いている。で地元の住民を観客に演劇を行った。その意志は川村の死で地元の住民を観客に演劇を行った。その意志は川村の死で演劇を成立させ、そこから現実を開いてゆこうとする演で演劇を成立させ、そこから現実を開いてゆこうとする演

劇団創設から六○年代にかけてのぶどう座の活動は 劇団創設から六○年代にかけてのぶどう座の活動 を題材とした民話劇作へと向かっていく。事に地域の問題を直接的に描いた作品を多く発表した。平 特に地域の問題を直接的に描いた作品を多く発表した。平 特に地域の問題を直接的に描いた作品を多く発表した。平 特に地域の問題を直接的に描いた作品を多く発表した。平 特に地域の問題を直接的に描いた作品を多く発表した。平

なっている。とも異なっており、川村にとっては珍しい長編の歴史劇ととも異なっており、川村にとっては珍しい長編の歴史劇と劇創作へと向かう過渡期に執筆された作品である。民話劇『どぶろく農民の墓』は、ぶどう座が文化運動から民話

この作品は『川村光夫戯曲集 うたよみざる』にも収録

130

するにあたっては、 に演劇人と行った書簡や上演後の座談会記録についても、 で七六ページの上演台本を参照した。また、台本執筆の際 されておらず、 現在まで未刊行となっている。作品を検討 劇団ぶどう座が所蔵する青焼き版印刷

『どぶろく農民の墓』 概要

必要に応じて参照する。

Ī 原作との相違点

で、どぶろくの摘発にやってきた役人と老夫婦のやりとり 造ったため、 名な白濁酒である。一八九九年、 を描いている。 演劇の題材にもなっており、宮沢賢治『税務署長の冒険』、 る事件が起こっている。こうしたどぶろくの摘発は小説や れていたどぶろくの自家醸造は、 の作品が創作された。川村も六九年に『めくらぶんど』 ふじたあさや『お婆さんと酒と役人と』『摘発』など多く この劇作品の題材となる「どぶろく」とは東北地方で有 しかし、 農民と役人の間では、 酒税法施行後も、 農民たちは秘密裡に酒を それまで免許制で認めら 酒税法によって禁止され 何度となく摘発をめぐ

東北農民濁酒密造記」に記録された「猫ノ沢事件」が原 どぶろく農民 スの墓』 は、 東北の農村詩人・真壁仁の

> 作となっている。 が記した「猫ノ沢事件」を瞥見しておきたい 川村の創作劇に当たる前に、 まずは真壁

 \coprod

県河辺郡船岡村の猫 摘発隊の一行は二十四日未明に猫ノ沢部落を一戸残らず捜 摘発隊と農民たちの衝突事件およびその後の訴訟を指 猫の沢事件」は、一九一六年六月二十四日 農民たちは摘発隊が来るという情報を前日に掴 ノ沢部落で起こった秋田税務署密造酒 1未明 13 秋

んでいたため、現品を処分していた。

する。 憎しみも相まって、 摘発隊は総がかりになって彼を殴りつけ、路上へねじ伏せ 助が戻ってきて、摘発隊の一人を押し倒そうとするので、 と考え、 之助の妻ヨツと出会う。彼らは密造酒を隠しに行った帰 用はねえ」と怒鳴り通り抜けていく。その後、 助に出会う。警告した摘発隊だが、鉄之助は「てめえらに てしまう。摘発隊にねじ伏せられた鉄之助はヨツと猫ノ沢 、引き上げ、ひどい暴行を受けたことを部落衆たちに報告 摘発隊は次の部落である庄内に向かう途中、 部落の惣代・七蔵を中心に、 ヨツに尋問を行う。すると先ほど通り抜けた鉄之 彼らは摘発隊 への復讐を決行する。 税務署に対する日頃 農民の鉄之 摘発隊は鉄

ところを見計らって、 摘発隊の一行が庄内から猫ノ沢の白山神社に戻って来た 摘発隊がやって来たことを農民たちに告げる。 農民の一人・松太郎が盤木を鳴らし 鎌や

猫ノ沢の農民たちはその日のうちに秋田警察署に総検挙さ出し、迎撃した。摘発隊八名のうち四名が傷害を負い、鉈、棒などを手にした三十名ばかりの農民が家々から飛び

れる。

(本の概要である。) 猫ノ沢事件の公判は同年十月十九日に行われ「騒擾公務なり、 なの刑に処された。農民たちはこの判決を不服として控金の刑に処された。農民たちはこの判決を不服として控金の刑に処された。農民たちはこの農民が懲役あるいは罰金の刑に処された。 は別の概要である。

い立つ。

どとむら衆に了知できない とき、どうしようもなく腕づくで法の行使者を追いかえす らいは見通せたからである」と述べている。 ており、 政の要求に応じてこれまでもいくどもいくども変化してき うような法が真理性あるいはいちじるしい正当性を持つな というところに追いつめられた。その場合も、 沢事件について「隠すということにも力つきて発覚された 知恵を絞って密造酒を隠すことに心血を注ぐ。 全国各地で見られたが、 かざしての攻撃は稀有なことであった。農民たちの大抵は どぶろくをめぐって、 なくすればなくすることも不可能ではないことぐ 真壁が述べるように、 農民が役人に抵抗することは当 のは、 それが 国の政策や国の財 真壁は猫 刃物を振 酒税法とい 時

した傷害事件を起こす【写真1】。

を取材し、事件の後日譚を中心に作品を構成することを思ものは川村の創作意欲に繋がらなかったが、実際に船岡村民雄に原作を薦められたことがきっかけだった。事件その民雄に原作を薦められたことがきっかけだった。事件その川田がはこの事件をどのように劇化したのだろうか。上演

ちの元に岩之助ら農民たちが登場し、 契機となっている。 之助が妻トメを尋問した酒税役人に打たれたことが事件 名前も改められている。 えられ、 猫ノ沢はこの作品では「熊の沢」という架空の村に置き換 村にとっては珍しい三幕構成の長編劇となった。 事件を知っている老婆、 このような経緯で書かれた『どぶろく農民の墓』 鉄之助は岩之助、 白山不動神社の境内で酒を探す酒税た 史実と同じく、鉄之助にあたる岩 ハツのモノローグから始まる。 妻のヨツはトメ、各登場 乱闘騒ぎとなり先述 物語は は、 Ш

た岩之助は、村のために事を起こしたにもかかわらず村八れ事件の後、異なる生き方を選ぶ。傷害事件の中心であっいの兄として源之丞という人物が登場する。三人はそれぞあたる鶴吉がこの作品では鶴次郎として、また二人の腹違縁した史実では、それほど触れられなかった鉄之助の兄に劇で中心に描かれるのは事件の後日譚である。真壁の記



【写真1】白山不動神社の高台に集まる酒税役人たち。1971年の上演写真と考えられる。 劇団ぶどう座所蔵。

前の六九年六月十五日には、劇団東演の下村正夫と台本に市民会館で初演された。本来は前年の上演予定だったが、市民会館で初演された。本来は前年の上演予定だったが、清田町周辺でまず巡回公演が行われ、七二年に改築した講堂で凱旋公演が行われた。
劇団ぶどう座が所蔵する書簡を参照すると、すでに二年た講堂で凱旋公演が行われた。

苦に耐えられず崖から転落して自殺をはかる。 う。岩之助は変わり果てた村の現実に気づき愕然とし、労め、鶴次郎の息子である金作を満州に送ると源之丞は言当選する。岩之助は喜んで祝いを述べに来るが、国策のた当選する。時代は下って一九三一年、源之丞は村会議員に分の状態になってしまう。鶴次郎は熊の沢を離れ、満州で

作やゆり子のその後が語られ、幕となる。 再び登場し、モノローグ。岩之助は亡くなり、残された金村に伝わる昔話「猿婿入」を語って聞かせる。老婆ハツがもう一度生きようと決意したようだ。彼は孫娘のゆり子にした。岩之助は、転落時に見た熊の沢の星空に感化され、した。岩之助は、転落時に見た熊の沢の星空に感化され、たっている。金作の満州行きは岩之助の怪我によって頓挫たっている。金作の満州行きは岩之助の怪我によって頓挫さらに時は流れ一九四六年、村は戦後の解放感に浮きさらに時は流れ一九四六年、村は戦後の解放感に浮き 開拓という政府の方針に歩み寄って息子の金作を満洲に送めら送られてきた手紙の内容を要約し、「作者のねらい」として「この〈事件〉を伝えたい。それも鶴吉、鉄之助という2つのタイプのちがう兄弟を中心として伝えたい」が、2つのタイプのちがう兄弟を中心として伝えたい」が、2つのタイプの告話を整理している。すでにこの頃から、兄弟の二人を対比して描こうとしている。すでにこの頃から、兄弟の二人を対比して描こうとしていたことが分かる。もっとも、この作品が興味深いのは、源之丞という第三もっとも、この作品が興味深いのは、源之丞という第三もっとも、この作品が興味深いのは、源之丞という第三もっとも、この作品が興味深いのは、源之丞という第三のタイプの農民を登場させ、彼らが権力に抵抗するだけでのタイプの農民を登場させ、彼らが権力に抵抗するだけでのタイプの農民を登場させ、彼らが権力に抵抗するだけである。下村は川村関するやり取りをしていることが確認できる。下村は川村関するやり取りをしていることが確認できる。下村は川村関するやり取りをしていることが確認できる。下村は川村関するやり取りをしていることが確認できる。

源之丞 これからはなんす、こういう熊の沢のような 山ばかりの村で百姓やっても見込はねえんす。んだ りを住、この船形村の分家を満洲さつくる仕事をやり 移住、この船形村の分家を満洲さつくる仕事をやり 移住、この船形村の分家を満洲さつくる仕事をやり をは、この船形村の分家を満洲さつくる仕事をやり でしてるんす。軍隊と一緒に満洲に渡って、 あの肥沃な大地を耕して、王道楽土を建設する。こ から私は、これからはなんす、こういう熊の沢のような れごそ日本男子の誇りある仕事だんすべ。 ろうとする際、

次のように岩之助に言う。

る_® 害者側の権力を政治的に支持するという構造が表れて 運動が挫折し、その後の農村共同体を維持することの困 権力への抵抗を示していたが、川村の創作はむしろそれら 持つものとして重ね合わせられる。猫ノ沢事件そのものは る側の役人と、被搾取側の息子がしばしば同じ徴兵経験を ど』(六九)においては、ほんらい対置されるはずの搾取 力に迎合してしまう若者が登場する。また、『めくらぶん では、小さな町のあり方に疑問を抱き反発するが結局は権 曖昧であることが示される。たとえば『町長選挙』(六二) ように、この場面には、ほんらい被害者であった農民が加 をもう一度立てでゆぐ」と反論する。山田民雄が指摘する に合った生き方をしてゆぐ、そうする事によつて深山 つたのはなんのためだんす。村の者を一つにまどめで時代 源之丞は反発する岩之助に対して「おらが村会議員にな 川村の劇作品は、しばしば権力と反権力の境界が実は

一二 昔話の使用

さに焦点を当てているといえる。

昔話を教える。「猿の嫁取り」は西和賀に伝わる昔話で、沢に疎開してきた山根一郎という人物にこの土地に伝わるう昔話が挿入される。終戦後、岩之助の孫娘ゆり子は熊の『どぶろく農民の墓』には、終盤に「猿の嫁取り」とい

いる。
いる。
いる。

は、 まう。『広報ゆだ』に掲載された昔話は、 せようとする。 せ、 込むが断られ、三女だけが爺さまの頼みに答える。 を猿の嫁にやることを約束してしまう。長女と次女に頼み 草取りを手伝ってもらったことを喜ぶ爺さまは、 爺さまが畑仕事に難儀しているところに猿が現れた。 腐る話は省略され、 末だったが、 けを断った長女と次女が最後に足を腐らせて死ぬという結 姫口惜しや、かろらん」と歌を読み、 たよみざる』と同じく、猿の立場に重きが置かれる。昔々、 ゆり子が語って聞かせた「猿の嫁取り」はその後の 猿は「猿さんが流れる命を惜しくはないが、 道すがら、 迎えに来た猿に餅を作るための臼と杵と米をかつが ゆり子の語 木のてっぺんに咲いた一輪の花を猿に取ら 重いものを背負った猿は川に転落してしま 猿が溺れるところで話が終わる りのなかでは、 川に流され死んでし 長女と次女の足が 爺さまの言 後で泣 自分の 三女 猿に う 娘

詞が改訂されたようだ。七一年十月十日に横手公演を観劇この昔話の場面は、観客の反応を見る限り、いくらか台

て、 ず、公演を重ねながら加筆された台詞と考えられる。それ 七月四日、 れていた「猿の嫁取り」は、『どぶろく農民の墓』におい までは猿を悪として人間の知恵を称えた物語として捉えら いが猿も無憎いやな」という台詞は上演台本では確認でき ないでしょうが」と川村に感想を寄せている。 と太い線でその感動が盛上がってこなければならぬ 注:会津弁で可哀想の意)あそこで感動をしました。でもも 昔ッコ、 した真壁仁はこの昔話に関して「ボクは六場の岩」助 別の意味を持つことになった。川村は上演前の七二年 あのあと「姫も無憎いが猿も無憎いやな」(引用者 下村に次のように書き送ってい る 「姫も無憎 のでは 0

があ 立って生きぬこうとした岩之助が到達した思想、それ 愚かさ) 農民、 られませんでした。今度気づいたのですが、 山田さんに以前 かってあの昔話があるのだ。(略) ガケから転落し、亡霊の兄と出会い、 点にこだわる事で行き、そのために重なる労苦の果に いれば…」という意味のことを言わ の戦後の場であり、 (源之丞の時流への迎合、村人の裏切り、 をあるがままに認識 「昔話がもっと劇の主題とつながって そういう岩之助の全生涯がか Ļ しかもなお原 れ、 ―そう思いい はじめて全体的 はっきり答え 鶴次郎の恐れ あれは原

りました。 ここ

簡で次のように再現している。

『どぶろく農民の墓』は、この作品だけでなく、川村は、古話。

「世話」そのものの見方を捉え直す契機となった。川村は、話を通して、農村の新たな側面を描こうとした。川村は、話を通して、農村の新たな側面を描こうとした。川村は、話を通して、農村の新たな側面を描こうとした。川村は、話で行われた寺山修司との座談会の合間に、「猿の嫁取り」について二三の会話を交わしている。現在この放送記録はについて二三の会話を交わしている。現在この放送記録はについて二三の会話を交わしている。現在この放送記録は、当時で表のとうに再現している。

われてるんですよ。
の中に民話が出てくるんですが、それが残酷だといの中に民話が出てくるんですが、それが残酷だといがあるんですがどう思います。実は今度書いた芝居

私 民話には残酷なものが多い。それで考えてみたん点からも残酷さえ表に出すことが必要ですよね。になると残酷になることが多いですよね。そういう寺山 人間一人一人のときはやさしいんですが、集団

寺山 そして平気な顔でビフテキを食う、いたみもなけない。そういうものを本質的に持っている。とこけない。そういうものを本質的に持っている。とこっが近代になるとそういう部分がかくされてしまう。中には例えば自分で飼った豚を殺して食うという残ですが、百姓の生活(イコール人間の原初的な生活)のですが、百姓の生活(イコール人間の原初的な生活)の

ですか。原初的なものをなつかしむ、そういうことじゃない原初的なものをなつかしむ、そういうことじゃない

ういうのです。
寺山 そういうことがあると思いますね。その民話ど

けれ」と崖から川へ落して殺す。 かして臼に餅を入れて背負わせて「桜花っことって私 猿のところに嫁入りさせられた娘が、猿をたぶら

(録画がはじまるので中断) 娘を百姓に例えると、どういうことになりますかな。

なるほど……おもしろいですねその話。……その

寺山

嫁取り」の話には寺山も興味を示した。川村は百姓の労た寺山の議論にはかみ合わない点が多々あったが、「猿の戦後新劇に影響を受けた川村と、六○年代演劇を牽引し

在することを指摘する。
苦、たとえば屠殺などを例にあげて、民話にも残酷性が内

スく農民の墓』の残酷性を紐解く過程で、作中の被搾取側ろく農民の墓』の残酷性を紐解く過程で、作中の被搾取側えば、『どぶろく農民の墓』には、物語の中盤で鶴次郎が流洲にわたり、満州人の子どもと生活する場面がある。鶴満川にわたり、満州人の子どもと生活する場面がある。鶴次郎は、彼を次郎という日本名で呼び、「日本語を勉強した郎人になれ、たゞの支那人で終わるなよ」と言う。対して、次郎と名付けられた満洲の子どもは次のように答対して、次郎と名付けられた満洲の子どもは次のように答対して、次郎と名付けられた満洲の子どもは次のように答対して、次郎と名付けられた満洲の子どもは次のように答案といる。

鮮人だってお前、 とを聞かれねえのか、 おれはな次郎お前が金作、金作っていうのは、 が。少し位いはどこにだつているものよ。(酒を呑む) お前、日本人になれ、支那人などやめでしまえ。 やってメンコイと思っているのだぞ。それを言うこ の息子だ。金作と同じ歳格好だと思うから、こう ニホン、イ、ヒトイルガ、ワルイヒトモイル。 ニホンジンナルナイ。 なあに、 ワルイヒトモイル? 今はレッキとした日本人だぞ。 お前は。 日本語を勉強しろ。 当り前でねえ 朝

鶴次郎(なにい、この小輩、い、気になりあがって。

この場面において、鶴次郎は村を逃亡せざるを得なかった被害者ではなく、植民地において無意識の悪意を体現すられた。『共存共栄』編集者の工藤民雄は、鶴次郎の行動られた。『共存共栄』編集者の工藤民雄は、鶴次郎の行動に対して「僕は鶴次郎と中国少年の関係がおっかない。鶴に対して「僕は鶴次郎と中国少年の関係がおっかない。鶴に対して「僕は鶴次郎と中国少年の関係がおっかない。鶴に対して「僕は鶴次郎と中国少年の関係がおっかない。鶴に対して「僕は鶴次郎と中国少年の関係がおっかない。鶴に対して「僕は鶴次郎と中国少年の関係がおっかない。鶴次郎に悪意はない。勝手に名前をつけたり、「勉強しては、と思うが、僕は善意のそういった日本人が石臼を背中にくくりつけて花などをとってやろうとしてその重さに結局は川に落ちて身を滅ぼしてしまう。そう感じました」と発言川に落ちて身を滅ぼしてしまう。そう感じました」と発言している。

立っていた湯田が、日本という構図に置き換えられることられた。川村はこの改作によって、今まで被差別の側にや演出によって、「里」は日本、「山」はアジアに置き換えだったが、八六年のミュージカル版改作の際、ふじたあさだったが、八六年のミュージカル版改作の際、ふじたあさだったが、八六年のミュージカル版改作の際、ふじたあさが執筆した『うたよみざる』(八二)でも示されている。猿が執筆した『うたよみざる』(八二)でも示されている。猿が執筆した『うたよみざる』(八二)でも示されている。猿が執筆した『うたよみざる』(八二)でも示されている。猿が執筆した『うたよみざる』(八二)でも示されていた湯田が、日本という構図に置き換えられることられた。川村は大きでは、

という関係性はすでに『どぶろく農民の墓』でも示されて機会となったが、差別と被差別が状況によって入れ替わるのふじたあさや演出は、川村にとって自身の劇を捉え直すで差別的側面をもつことに目を開かされたという。八六年

いたといえるだろう。

『どぶろく農民の墓』には、「猿の嫁取り」だけでなく、『どぶろく農民の墓』には、「猿の嫁取り」だけでなく、また、ハツのモノローグとして語られる「おらだ百押しつぶされてしまう『めくらぶんど』の爺さまを連想させる。また、ハツのモノローグとして語られる「おらだ百姓には出口がねえす。ぐるぐる廻って探して歩いても出口はねえす。んだがら、気が狂わねえように昔っこ語るのはねえす。んだがら、気が狂わねえように昔っこ語るのはねえす。んだがら、気が狂わねえように昔っこ語るのはねえす。んだがら、気が狂わねえように昔っこ語るのはねえす。んだがら、気が狂わねえように昔っこ語るのはねえす。んだがら、気が狂わねえように昔ってある場所である。

二 「地域市民演劇」の萌芽

「コミュニティ・シアター」とは、公共劇場とも呼ばれ

『どぶろく農民の墓』の演劇実践はどのような意義を持っるようになった。コミュニティ・シアターとしてみた時、チュアたちによって仕事の余暇に盛んに演劇活動が行われ始まり、戦後の日本においても、演劇を専門としないアマる演劇の一形態を指す。二〇世紀初頭にアメリカにおいて

ていたのだろうか。

当初、この作品は劇団員だけで上演する予定だったが、当初、この作品は劇団員だけで上演する予定だったが、の演劇サークル〈もぐら〉から六名が参加する。七一年七の演劇サークル〈もぐら〉から六名が参加する。七一年七の演劇サークル〈もぐら〉から六名が参加する。七一年七の演劇サークル〈もぐら〉から六名が参加する。七一年七のでの貴劇団の状況は座員の過疎という点からいっても最悪の状態であったと云えます。幕のおわった直後、相沢君郎の状態であったと云えます。幕のおわった直後、相沢君がわたしに、神業でしたね……』と感慨を込めて、一言洩らしましたが、あながちオーバーな表現とも云えないようらしましたが、あながちオーバーな表現とも云えないようらしましたが、あながちオーバーな表現とも云えないようらしましたが、あながちオーバーな表現とも云えないようらしましたが、あながちオーバーな表現とも云えないようらしましたが、あながちオーバーな表現とも云えないようによりない。

いた。日比野啓は『「地域市民演劇」の現在』(二〇二一)が、この時期は全国各地のアマチュア劇団もまた低迷してかしがたい生活上の理由があってのこと」と述べている劇団員の減少を、川村は「去って行った一人一人には動

れる。 復活し、新劇系リアリズム劇団とは異なる新しいジャンル 年代末の「ふるさと創生事業」を始めとする文化事業の支 集めにも苦労するようになった」と述べ、劇団ぶどう座を アマチュア演劇の歩みともある程度一致していたと考えら は戦後新劇を基盤とした地域劇団ではあるが、全国各地 の地域市民演劇が台頭したと日比野は整理する。ぶどう座 づけている。落ち込みを見せたアマチュア演劇だが、八〇 面して、 のなかで、七〇年代以降、 いたアマチュア劇団は、観客動員もさることながら、 七〇年前後に運動体としての劇団の変質という状況に直 指導者の都市圏から地方へのUターンなどによって それを何らかの形で乗り切ってきた」劇団と位置 「新劇的感性と深く結びつい 団員 7

の墓』は、どのように低迷期を乗り越えたのだろうか。支援もそれほどであった時期に製作された『どぶろく農民それでは、運動体としての側面が弱体化し、行政からの

民の苦悩を一緒に考える仲間をつくりたい。

『どぶろく農民の墓』について、以下のような文章を寄せ俗村村長、その後一戸町文化協会長を務めた中野清美はどう座を支援していたことが挙げられる。戦後、岩手県刈運動に影響を受けた岩手一帯のサークル団体が引き続きぶ一つには劇団の存続こそ困難であったが、サークル文化

経験者の連がりも深くなり得る。
る連帯意識だ。(略)共通経験が深ければ深いほど、い。仲間とは、共通の経験をもったことによって生ずい。仲間とは、共通の経験をもったことによって生ずく招来するために、私たちは仲間をつくらねばならな人間が人間的に生きるために必要な変革を一日も早

くさんの町民にこの劇を見てもらい転機に来ている農を読みながら私は、この町の小つなぎ部落のことを考演劇部会では「ぶどう座」の「どぶろく農民の墓」を演劇部会では「ぶどう座」の「どぶろく農民の墓」を演劇部会では「ぶどう座」の「どぶろく農民の墓」を演劇部会では「ぶどう座」の「どぶろく農民の墓」をを読みながら私は、このような意義を認めてのことだ。(略)というものにちがいない。今は私もこうした努力を迂というものにちがいない。今は私もこうした努力を迂というものにちがいない。

中野が言及する「小つなぎ部落」の入会権紛争とは、岩動を行ったぶどう座のスタンスとも通い合う。のづくりの拠点」として演劇の垣根をこえた稽古場建設運のでもが利用できる村の文化センター」「村づくりと人間れでもが利用できる村の文化センター」「村づくりと人間中野が主張する文化運動は、演劇に限らず地域共同体の中野が主張する文化運動は、演劇に限らず地域共同体の

保こそ困難な時期に上演されたが、広く東北一帯における 帯感のようなものを持つことができました。ところで私の 決までおよそ五〇年におよんだ権利運動だった。観劇した 立ち入りを禁止したことに端を発する。これまで共有財産 手県一戸町で一九一六年に起きた「小繋事件」を指す。こ 持を獲得した作品だったといえる。 民主化運動と共鳴しながら、 点を見出している。『どぶろく農民の墓』は、 よく似たものがでてきます」と自らの地域の課題との共通 て、どぶろくと入会権というものを置きかえると、 ところには御承知の小繋事件の小繋という地域がありまし て農民が立ち上がり、 としてきた歴史を無視した地主による所有権の主張に対し れは小繋山の所有者となった地主が、自分の山への農民 て、私たちも岩手県の文化運動をやっているのだという連 戸町文化協会の服部秀教は、「今度ぶどう座公演をやっ 一七年の提訴から七三年の最高裁判 演劇関係者にとどまらない支 劇団員の 非常に 確

取り上げながら、近年の地域市民演劇に資本主義的 地主義的な制度から逃れた地域再生の可能性を見出そうと 照し、沖縄で二○○○年より始められた「現代版組 の歴史学における 本橋哲也は、『「地域市民演劇」の現在』 パ ブリック・ヒストリー」 において、 0) 動 前を参 踊」を 近年 植民

> している。 は、 後新劇を基盤としながらも、 割を果たしたと考えられる。『どぶろく農民の墓』は、 がった。また、湯田のみならず各地域で行われた巡業公演 地域の内部/外部といった枠組を再定義することにつな に出演を依頼することは結果として、プロ/アマチュア、 不足によって、以前から交流のあった劇団東演の俳優たち るが、これは七一年に上演された『どぶろく農民の墓』に 成立することを「地域市民演劇」の特徴として見出 はなく両方の場において当事者性を意識させる形で演劇 効化すること、舞台と客席が厳然と分けられているわ 出家や俳優(専門家)と素人演劇(非専門家)との区 る実践に着目する。本橋は「現代版組踊」から、 験など、 る学問的な歴史だけではなく、 ある程度共通するものを見出すことができる。 東北一帯の農村コミュニティを緩やかに連帯させる役 一般大衆が自らの日常生活において作り出 「パブリック・ヒストリー」は、 八〇年代以降盛んとなる地 口承や伝承、感情や身体経 歴史学者によ プロ 劇団目 別 してい して が無 一の演 け

Ŕ

お わりに

市民演劇の要素を兼ね備えた作品だったといえる。

『どぶろく農民の墓』 は、「猫 ノ沢事件」の概要だけにと

七〇年代は、ぶどう座だけでなく岩手各地で市民劇が始むの年代は、ぶどう座の土地の歴史や偉人を取り上げた市民参加型の劇が始められた時期でもある。道又力は七六年に岩手県遠野市でおれた「遠野物語ファンタジー」を契機に、岩手各地で野民劇場として『夢喰いあらし』(八五)を行い、九三年の町民劇場として『夢喰いあらし』(八五)を行い、九三年の町民劇場として『夢喰いあらし』(八五)を行い、九三年の町民劇場として『夢喰いあらし』(八五)を行い、九三年のでいる。道又の提唱する市民劇は現在も継続して岩手県内にいる。道又の提唱する市民劇は現在も継続して岩手県内にいる。道又の提唱する市民劇は出たのと、岩手各地で市民劇が始められた時期でもある。道又力は七六年に岩手県遠野市であれたと述べているが、その土壌として七〇年代は、ぶどう座でなく岩手各地で市民劇が始むくないたろう。『どぶろく農民の墓』は、ぶどうしてはならないだろう。『どぶろく農民の墓』は、ぶどうしてはならないだろう。『どぶろく農民の墓』は、ぶどうとのよれた。

でも非常に意義深い作品であるといえる。における東北コミュニティと演劇の結びつきを考えるうえ座という地域劇団の歴史を検証するだけでなく、戦後日本

注

- (1)川村光夫は、特に劇団東演の演出家であった下村正夫と交流の。他にも約一二〇通の演劇関係者との書簡が確認できる。の。他にも約一二〇通の演劇関係者との書簡が残っている。他にも約一二〇通の演出が下村へ宛てた手紙が遺族から返却されたこともあり、約三二〇通の往復書簡が残っている。他にも約一二〇通の演劇関係者との書簡が確認できる。
- の民』谷川健一他編、学芸書林、一九六九年、六~二五頁真壁仁「東北農民濁酒密造記」『ドキュメント日本人7 無告

2

- (3) 同掲書、十一~十二頁
- 見田宗介、劇作家の山田民雄、川村光夫。 座談会のメンバーは、劇団東演出家の下村正夫、社会学者の座談会のメンバーは、劇団東演出家の下村正夫、社会学者の座談会。墓、農民、日本人を語る」『どぶろく農民の墓』上
- に岩之助が転落時の状況を回想するにとどまっている。 挿入されているが、上演台本では鶴次郎は登場せず、終戦後た鶴次郎に励まされ、新たに生き抜くことを決意する場面が(5)上演パンフレットに記載された場面構成表には、亡霊となっ
- (6)下村正夫「独酒農民の墓(メモ)」一九六九年七月十五日

- (7)川村光夫『どぶろく農民の墓』上演台本、 五三頁
- 演パンフレット、一四頁 墓、農民、日本人を語る」『どぶろく農民の墓』上
- 「方言昔話① 一九八〇年、四二頁)。 田町役場商工観光課編 猿の嫁っコ」『広報ゆだ』昭和二九年三月号 『広報ゆだ 第一集』所収、 北辰印刷、
- 10 川村光夫『どぶろく農民の墓』上演台本、七一~七二頁
- (11) 川村光夫から下村正夫への書簡 〇月二四日 岩手川尻消印 一九七一年 (昭和四六) 一
- 12 川村光夫から下村正夫への 月四日 岩手川尻消印 書簡 九七二年 (昭和四二)

七

- 川村光夫から下村正夫への書簡 一九七〇年一一月一二日差
- 14 『どぶろく農民の墓』上演台本、三三~三四頁
- 「座談会『どぶろく農民の墓』と岩手の農民について」『どぶ 行われた。出席者は矢崎須磨、石川武男、服部秀教、伊東利己、 所蔵。座談会は一九七一年一二月一一日に盛岡市自治会館で ろく農民の墓 上演記録』一九七一年、七頁、 小原徳志、斎藤彰吾、 小原麗子、 瀬川清悦、 工藤民雄、工藤 劇団ぶどう座
- 16 川村光夫「物語りが出会うとき」『岩手湯田銀河ホ 劇祭』パンフレット、 一九九五年、 ル 国

宜見、千田茂光、

川村光夫。

- 17 『どぶろく農民の墓』上演台本、七六頁
- 川村光夫『素顔をさらす俳優たち』晩成書房、一九八六年
- 下村正夫から川村光夫への書簡 一九七一年七月二五日差出

- 20 川村光夫「未来に向って立つ墓を――」『どぶろく農民の墓 上演パンフレット、 一頁
- 21 日比野啓「総論」『「地域市民演劇」 の現在

H

比野啓編、

話社、二〇二一年、一一頁

- 中野清美「『どぶろく農民の墓』の上演にあたって」『どぶろ どう座、一九七一年、劇団ぶどう座所蔵 く通信《どぶろく農民の墓》を見る会 合同機関紙』劇団ぶ
- (2)「座談会『どぶろく農民の墓』と岩手の農民について」『どぶ ろく農民の墓 上演記録』、七頁
- $\widehat{24}$ 解き放て 本橋哲也「名もなき民の/声なき歌を/道に立つ人よ/風に パブリック・ヒストリーとしての「現代版組踊
- 25 道又力『岩手の市民劇 『「地域市民演劇」の現在』、四 二戸・盛岡・紫波・宮古・奥州』 一~六八頁
- グナル社、二〇二二年